

特殊例から考えるアスペクトを 表す“起来”

張 竹 翠

1. はじめに

アスペクトを表す“起来”について、従来様々な研究が行われてきた。それらを総括すると、“起来”は「開始とその継続」を含意することが共通点として挙げられる。

先行研究（佐藤 1976 と朱 2004）では、“起来”と動補構造は共起できないと示されている。しかし、“一到那儿，连队就改善起生活环境来”（そこに着くと、連隊は生活環境を改善し始めた）。《汉语动词用法辞典》のように、共起できる例文も観察される。

また、“起来”は瞬間動詞、静態動詞と共起しえないと述べられている（戴 1997 と佐藤 1976 など）。しかし、“为了不暴露姓氏，使敌人无法捉摸，大家都姓起李来……”（名前が明らかにならず、敵が捕まえようがなくなるように皆李と名乗るようになった）《一面光荣的旗帜》、“梅公子惊问道：‘……为何姓起李来？’”（梅公子は驚いて言った。「何で李という姓になったの？」）《醒风流》等の文も見受けられる。

上記の文が観察できるのはなぜなのか？本稿では、このような先行研究では明らかにされていない用例を手がかりにして、“起来”と本動詞の共起関係の側面から、「開始とその継続」を表す“起来”の検討を試みる。

2. 本研究の前提

2.1 先行研究の問題点

“起来”と本動詞の共起関係に関する先行研究は、動詞の分類に基づき論じられてきた。戴 1997 では“瞬间动词的起始与终结‘重合’，动作缺乏延续性，

因此，瞬間動詞作謂語的句子一般不能帶起始體形態‘起來’”とあり、佐藤1976では「‘起來’が靜態動詞と共起しえないのに対して、他動詞はほぼ共起し得る」と指摘している。

上記のように、従来の研究では、“起來”と継続動詞とは共起し得るが、瞬間動詞とは共起し得ないと考えられている。しかし、継続動詞と瞬間動詞の分類は、それぞれ継続動詞、瞬間動詞に含まれる動詞の数が大きく、大まかであることは事実である。そして、多くの例外を解釈できないことも珍しくない。この点については、心理動詞、状態動詞など動詞分類の先行研究も同じである。たとえば、

- (1) 他也懂起礼貌来 (彼も礼儀がわかってきた)。《汉语动词用法辞典》
(心理動詞)
- (2) *他也晓得起礼貌来。(心理動詞)
- (3) 一到那儿，连队就改善起生活环境来 (そこに着くと、連隊は生活環境を改善し始めた)。《汉语动词用法辞典》(瞬間動詞)
- (4) *一到那儿，连队就改变起生活环境来。(瞬間動詞)

以上のように、(1)と(2)はどちらも心理動詞であり、(3)と(4)はどちらも瞬間動詞である。にもかかわらず、いずれの動詞も“起來”と共起できる場合と共起できない場合がある。したがって、“起來”と本動詞の共起関係を考察する前提として、従来の動詞の分類を再考する必要がある。

2.2 郭1993による動詞分類を採用する理由

本来、アスペクトを表す“起來”は開始とその継続を表している。したがって、本動詞と“起來”の共起関係を考える際、その前提として本動詞が表す動作に継続性があるかどうかを考える必要がある。

本稿では、郭1993「中国語動詞のプロセス構造」による動詞分類を採用し、“起來”と本動詞の共起関係を調べてみる。郭1993は中国語動詞のプロセス構造を系統的に分析したものである。動詞のプロセス構造は、動詞が示す動作もしくは状態の内部プロセスが持つと想定される構造である。起点、終点、継続

特殊例から考えるアスペクトを表す“起来”

部分の三要素から構成され、三要素の有無、強弱の差によって、六つの基準に基づいて、中国語動詞のプロセス構造を無限構造 (Va)、前限構造 (Vb)、両限構造 (Vc1、Vc2、Vc3、Vc4、Vc5)、後限構造 (Vd1、Vd2)、点構造 (Ve) の五つの大グループと 10 の小グループに分類している。

無限構造 (Va) は起点も終点もなく、継続部分がきわめて弱い。前限構造 (Vb) の特徴は、起点はあるが終点はなく、継続部分がとても弱いことである。両限構造 (Vc1、Vc2、Vc3、Vc4、Vc5) の特徴は起点も継続部分も終点もあることである。後限構造 (Vd1、Vd2) の特徴は継続部分と終点はあるが、起点はないことである。点構造 (Ve) の起点と終点は重なり合っていると論じられている。

これらの分類は、三要素 (起点、終点と継続部分) の有無だけではなく、強弱などの違いも詳細に考慮されている。たとえば同じ心理動詞であっても、上記の“懂”は両限動詞であり、“晓得”は前限動詞である。前限動詞は起点はあるが、終点はなく、継続部分はとても弱い。前限動詞は従来状態動詞とされていたが、心理動詞が多く、無限動詞より「動力を必要としない」という特徴が弱まる。一方両限動詞の特徴は起点も終点も継続部分もあることである。しかし、起点、終点、継続部分の強弱はそれぞれ異なり、Vc1 から Vc5 まで継続部分はだんだん強くなる。言い換えれば、同じ心理動詞であっても、“懂” (Vc1) は“晓得” (Vb) より継続部分が強く、動作性が強い。したがって、上記の例“他也懂起礼貌来。《汉语动词用法辞典》(心理動詞)”はいえるが、“他也晓得起礼貌来。(心理動詞)”はいえないということの一つの解釈になるのではないだろうか。

2.3 本章のまとめ

本動詞と開始とその継続を表す“起来”の共起関係を考える時、本動詞が表す動作に継続性があるかどうかを考えるべきである。郭 1993 では起点、終点と継続部分の有無だけではなく、強弱などの違いも考慮されており、動詞分類は五つの大グループと 10 の小グループに分類している。“起来”と本動詞の共起関係を研究するための前提として、有効であると考えられる。

3. “一到那儿，连队就改善起生活环境来” はなぜいえるのか？

3.1 郭 1993 による理論上の分析

佐藤 1976 と朱 2004 では、“起来” と動補構造は共起できないと示されている。

しかし、「動＋趨向補語」構造、「動＋結果補語」構造など、多くの場合郭 1993 の動詞分類の Vd (後限構造)、Ve (点構造) に属する。郭 1993 が後限構造、点構造について述べたように、後限構造は継続部分と終点があり、起点がない。Vd1 と Vd2 の共通点は変化の意味合いを帯びることで、即ち動作が終了した時点である種の突然的な変化が起こることである。しかし、この変化に至る前には漸次的な変化を示す継続部分を伴うこともある。点構造の特徴は瞬時性と変化性にあり、後限構造と同じ常にある種の突然的な変化を表すが、この変化の前に必ずしも漸次的な変化の継続部分を含まず、動作の起点と終点が重なり合っていると理解することも出来る。

したがって、動補構造は二種類に分けられると考えられる。一つは“改善”“扩大”“延长”“放松”などであり、動補構造に現れた動作は継続部分を含んでおり、これらの動補構造は“起来”と共起する可能性を持つ。一方、“改变”“消除”“打倒”“遇见”のように、動補構造に現れた動作は継続部分を含まず、これらの動補構造は“起来”と共起できない。

つまり、“起来”はすべての動補構造と共起できないのではなく、動補構造に起点→継続部分→終点のプロセスを持っていれば、“起来”と共起することが可能であるのではないか。この点を以下検証していきたい。

3.2 本稿による調査上の検証

本稿では、郭 1993 の中で挙げた Vd と Ve 類の動補構造の動詞と“起来”との共起状況を調べた。

郭 1993 が挙げた Vd と Ve 類の動詞は合計 276 個であり、その中には一音節動詞と二音節動詞がある。一音節動詞は一文字であり、動補構造にならないた

特殊例から考えるアスペクトを表す“起来”

め、これを除いて、二音節動詞を対象範囲とする。さらに、二音節動詞には並列関係の「動+動」構造(たとえば“覚悟”など)、「動+目的語」構造(たとえば“毕业”など)、「修飾語+動」(たとえば“爆发”など)と「動+補」構造に分けられる。前者の三種類を除いて、最終的に、本稿では、二音節の「動+補」構造を対象とする。

そして、本稿では、《汉语动词用法辞典》、《趋向补语通释》の〈动词和趋向补语搭配总表〉、『中日对释语料库』、また中国語版ヤフーのサイトから無作為的に抽出した用例の中から、後限構造、点構造の中の動補構造と“起来”が共起できる例について調べた。その結果、共起できる例は“改善、减少、扩大、缩小、提高、延长、放松、削弱”のように、合計8例があった。以下の例文を参照されたい。

(5) 一到那儿，连队就改善起生活环境来。《汉语动词用法辞典》

(6) 就是说，敌之不利减少，我之不利开始发生，以至不断扩大起来。《毛泽东选集第一卷》

(7) 怎么又延长起工作时间来了？《汉语动词用法辞典》

(8) 我见他脾气好，便不由地在他面前放松起来。

(<http://woshinidezhengliushui.aa.61.fm/read/286053.htm>)¹⁾

そして、“打破、改变、改正、破坏、消除、消灭”のような後限構造の動補構造、また“打倒、达到、粉碎、取得、决定、碰见”のような点構造の動補構造と“起来”は共起できない。

最後に、“起来”と共起できる動補構造(タイプ1)及び“起来”と共起できない動補構造(タイプ2)を比較してみると、タイプ1の多くは「動詞+形容詞」構造であり、これに対して、タイプ2は「動詞+動詞」構造と「動詞+形容詞」構造であることが分かった。

3.3 陳 1988 による理論上の再検証

陳 1988 「現代中国語における時間体系の3元構造」では、中国語の文が表す事態は「状態、活動、終結、複合変化、単純変化」の5種のタイプの時相構造

に分けられる。

複合変化類の事態文に常用される動詞の中には、2類の動補構造を含む。すなわち、「動詞＋方向補語」構造と「動詞＋形容詞」構造である。単純変化の事態文に常用される動詞の中にも2類の動補構造を含む。それは、「動詞＋動詞」構造と「動詞＋形容詞」構造である。動詞が伴う補語の性質が、文全体の事態タイプの分類に影響を与えると述べている。

3.4 本章のまとめ

“起来”と動補構造の共起関係について、動補構造に起点→継続部分→終点というプロセスを持っていれば、“起来”と共起することが可能であると考えられる。複合変化類の動補構造は意味構成に漸次変化的性質を含んでいるため、“起来”と共起できる。単純変化類の動補構造はその補語成分が動詞であっても、形容詞であっても、その意味構成に漸次変化的性質を含んでいないため、“起来”と共起できない。このような観点は理論上だけではなく、実際の多量の言語データの中でも検証できると本稿の調査から分かった。

4. “为了不暴露姓氏,使敌人无法捉摸,大家都姓起李来……”、“梅公子惊问道:‘……为何姓起李来?’”はなぜいえるのか?

4.1 “起来”と本動詞の共起関係について

“起来”は動作の開始とその継続を表す。“起来”と本動詞の共起関係を研究する上で最も重要なのは、動詞が起点、継続部分と終点を持っているか否かという点であると考えられる。本稿では、郭1993の提示した起点、継続部分、終点の三要素による動詞分類に基づき、“起来”と本動詞との共起関係を考察した。

まず、次の例文を参照されたい。

グループ1

- (9) 过了快一小时了,她开始低声唱起来(一時間ほど経ったとき、彼女は小声で歌い始めた)《活动变人形》

特殊例から考えるアスペクトを表す“起来”

- (10) 每到这时，他都会情不自禁地唱起来（こういう時になるたびに、彼はいつも思わず歌いだす）（作例）
- (11) 从来不唱歌的他，最近也开始唱起来（元々歌を歌わない彼が最近は歌を歌うようになった）。（作例）

グループ2

- (12) 为了不暴露姓氏，使敌人无法捉摸，大家都姓起李来……（名前が明らかにならず、敵が捕まえようがなくなるために皆李と名乗るようになった）《一面光荣的旗帜》
- (13) 梅公子惊问道：“…为何姓起李来？”（梅公子は驚いて言った。「何で李という姓になったの？」）《醒风流》

(9)、(10)、(11)で、同じ「開始とその継続」を表す“起来”と動詞“唱”の“唱起来”のフレーズだが、意味がそれぞれ違う。また、通常“起来”と共起し得ない“姓”は“起来”と共起でき、(12)、(13)は、同じ「開始とその継続」を表しているが、“姓起李来”の意味がそれぞれ違う。二つのグループの中で、それぞれの“唱起来”と“姓起李来”の意味はどのような違いがあるのか、なぜこのような違いを生じたのか。下記に検討していく。

4.2 “起来”と本動詞の共起関係の一つ目の意味

“起来”と本動詞の共起関係の一つ目の意味（表①）

<p>(14) 他们逐渐熟悉起来（彼らはだんだん親しくなった） 《动词用法辞典》</p> <p>(15) 高二林…中略…“唏里呼噜”地吃起来了（高二林は…中略…ズルズルとすすりはじめた）《金光大道》</p>	<p>○→（○は開始時点を含まないことを示す）</p>	<p>一つ目の意味</p>
<p>(16) 虽然8点钟才开始上班，但7点半，很多工人已经开始工作起来（八時になってから、仕事は始まるのに、七時半に多くの労働者はもうすでに仕事を始めた） (http://news.sina.com.cn/c/2004-03-10/12442013647s.shtml)</p> <p>(17) 几天之后，将辫子盘在顶上的逐渐增加起来了……（何日か後に、弁髪を頭のとっぺんにぐるぐる巻きにした連中がだんだんと増えてきた……）《呐喊》</p>	<p>●→（●は開始時点を含むことを示す）</p>	

(14)では、“熟悉起来”は何らかのきっかけで、彼らが知り合ってから、少しずつ親しくなってきたということを示す。“起来”は動作が開始以後のある時点から継続していくプロセスを反映している。図で示すと、○→のような形状である。○は開始点を含まないことを示す。

(16)では、七時半から、多くの労働者たちが仕事を始め、そして仕事をし続けている。“起来”は開始時点から、開始時点を含むその直後の継続過程を反映している。図で示すと、●→のような形状である。●は開始時点を含むことを示す。

上記(14)、(15)、(16)のように本動詞が動作自身の開始と継続を表すのは、“起来”と本動詞の共起関係の一つ目の意味であると考えられる。

4.3 “起来”と本動詞の共起関係の二つ目、三つ目の意味

すべての動詞はその動作自身に開始と継続のプロセスを持っているのではない。たとえば“死”は郭1993により、点構造動詞であり、起点と終点が重なっているため、継続部分は持っていない。また、動詞のその動作自身が開始と継続のプロセスを持っていても、「動詞+起来」は必ず動作の開始とその継続を表すわけではないと考えられる。下記の表②を参照されたい。

“起来”と本動詞の共起関係の二つ目、三つ目の意味(表②)

(12) 为了不暴露姓氏，使敌人无法捉摸，大家都姓起李来……（名前が明らかにならず、敵が捕まえようがなくなるように皆李と名乗るようになった）《一面光荣的旗帜》 (18) 最近，连那些曾扬言绝不结婚的自由派们，也一个个地结起婚来（最近かつて決して結婚しないと宣言していた自由派の人々も一人又一人と結婚しだした）（作例）	本動詞の動作主が複数である	二つ目の意味
(19) 没想到他又病起来了（彼が又病気になるとは思ってもみなかった）《汉语动词用法辞典》 (10) 每到这时，他都会情不自禁地唱起来（こういう時になるたびに、彼はいつも思わず歌いだす）（作例）	本動詞の動作主が一つである	

特殊例から考えるアスペクトを表す“起来”

<p>(13) 梅公子惊问道：“…为何姓起李来？”（梅公子は驚いて言った。「何で李という姓になったの？」）《醒风流》 (11) 从来不唱歌的他，最近也开始唱起来（元々歌を歌わない彼が最近は歌を歌うようになった）（作例）</p>		三つ目の意味
--	--	--------

“姓”は郭1993による動詞分類のVc1類動詞に属する。動作の起点、継続部分、終点がそろっているが、継続部分と終点が弱いため、普通“起来”と共起し得ない。しかし、(12)のように“姓起李来”はいえる。これは苗字をかえるという行為が誰かから開始し、そしてその状態が連鎖していくことを表している。つまり、“姓”という動作が複数の動作主により何回も繰り返されて、“姓”という動作の継続部分がだんだん強まっている。したがって“姓”は“起来”と共起できるようになった。

(19)では動作主は一つだが、動作は何回も繰り返されている。つまり、動作が何回も繰り返されるということでは(12)、(18)と同じであり、もともと“起来”と共起しえない動詞が“起来”と共起しえるようになった。

以上のように、“起来”はある動作が繰り返されて、その一回目或いは一回目以後のある時点から開始し、そしてその後まだまだ継続していくという意味を表している。本稿では、これを“起来”と本動詞の共起関係の二つ目の意味と解釈する。

また、(13)の“为何姓起李来?”では、“姓”という動作は継続部分と終点が弱いが、その動作はもともと存在していない状態から、存在する状態に変化し、そして継続していることにより、“姓”という動作の継続部分は強くなり、“起来”と共起できるようになる。これは本動詞との共起関係が三つ目の意味になると言えよう。(11)も同じである。(11)の文脈では、“唱起来”は“唱歌”という動作が“不唱”という動作から“唱”という動作に変化し、そしてその後も継続しているというプロセスを描写していると思われる。

4.4 “起来”と本動詞の共起関係の三つの意味

以上のように、“起来”と本動詞の共起関係は三つの意味を含意すると考え

られる。

この三つの意味はそれぞれ (9)、(10)、(11) で表されている。

(9) 过了快一小时了，她开始低声唱起来（一時間ほど経ったとき、彼女は小声で歌い始めた）《活动变人形》

(10) 每到这时，他都会情不自禁地唱起来（こういう時になるたびに、彼はいつも思わず歌いだす）（作例）

(11) 从来不唱歌的他，最近也开始唱起来（元々歌を歌わない彼が最近は歌を歌うようになった）（作例）

“唱”の動作は元々起点、継続部分と終点を持っており、“起来”と共起できる。また、“唱”の動作は繰り返され、あるいは、“不唱”の動作から“唱”の動作に変化し、“起来”と共起できる。“起来”と“唱”が共起することによって、“起来”は三つの意味を含意する。

さらに、(12)と(13)では、“姓”の動作は元々起点、継続部分と終点を持っているが、継続部分と終点が弱いため、“起来”と共起できない。しかし、“姓”の動作は繰り返され、あるいは、“不姓”の動作から“姓”の動作に変化することによって、“起来”と共起できるようになった。“姓起～来”は二つの意味を持っており、“起来”と“姓”が共起することによって、“起来”は三つの意味の一部を含意する。

(12) 为了不暴露姓氏，使敌人无法捉摸，大家都姓起李来……（名前が明らかにならず、敵が捕まえようがなくなるために皆李と名乗るようになった）《一面光荣的旗帜》

(13) 梅公子惊问道：“…为何姓起李来？”（梅公子は驚いて言った。「何で李という姓になったの？」）《醒风流》

最後に、“是”（～は～だ）などは、起点も終点もなく、継続部分が極めて弱いため、“起来”と共起できない。また、“死”（死ぬ）は起点と終点が重なっており、継続部分を持たないため、“起来”とも共起できない。“打破、毕业”などは“死”という動作のプロセス構造と似ている。

4.5 “起来”と本動詞の共起関係の三つの意味をまとめ

“起来”と本動詞が共起することによって、“起来”は三つの意味を含意する。本動詞の動作自身の開始と継続を表すのは“起来”の一つ目の意味であり、本動詞の動作自身の開始と継続ではなく、その動作が同じ動作主或いは複数の動作主により繰り返されることを表すのは“起来”の二つ目の意味であり、もともとなかった動作が新たな動作に変化し、そして継続することを表すのは“起来”の三つ目の意味である。この三つの意味は一つの総体を成している。

5. まとめと今後の課題

本稿では、主に動詞との共起関係から、アスペクト表す“起来”について検討した。

その結果、下記に述べる三点が分かった。

まず、“起来”と本動詞の共起関係を研究するための前提として、郭 1993「中国語動詞のプロセス構造」による動詞分類が有効であると考えられる。

そして、“起来”と動補構造の共起関係について、動補構造に起点→継続部分→終点のプロセスを持っていれば、“起来”と共起することが可能であると考えている。すなわち、複合変化類の動補構造は“起来”と共起できるが、単純変化類の動補構造は“起来”と共起できない。

それから、“起来”と本動詞が共起することによって、“起来”は三つの意味を持っている。この三つの意味は一つの総体を成している。

今後は、第一に、動詞との共起関係の側面も含めて、構文上、意味上、語用論の立場からも考えてみたい。第二に、“起来”だけではなく、“下来”“下去”などを研究し、“起来”、“下来”、“下去”などの要素を加え、中国語動詞のプロセス構造を新たに考えてみたい。第三に、日中対照研究によって、“起来”、“下来”、“下去”と日本語複合動詞の違いについて考察してみたい。

注

- 1) 本稿における URL の表記は中国語ヤフーから無作為的に抽出したサンプルの所在を表す。

〈参考文献〉

- 呂叔湘 2002 《現代漢語八百詞 2002 增訂版》商務印書館
- 劉月華 1998 《趨向補語通釋》北京語言文化大學
- 龔千炎 1995 《漢語的時相、時制、時態》商務印書館
- 胡裕樹 范曉 1995 《動詞研究》河南大學出版社
- 李臨定 1990 《現代漢語動詞》中國社會科學出版社
- 李鐵根 1999 《現代漢語時制研究》遼寧大學出版社
- 孟琮等 1999 《動詞用法辭典》商務印書館
- 北京語言學院語言教學研究所 1992 《現代漢語補語研究資料》北京語言學院出版社
- 劉月華 1989 《漢語語法論集》現代出版社
- 戴耀晶 1997 《現代漢語時體系統研究》浙江教育出版社
- 郭銳 1993 〈漢語動詞的過程結構〉《中國語文》第6期
- 平井和之 1991 「“～～起來”の表す意味」『東京外國語大學論文集第42号』
- 佐藤晴彦 1976 「〈開始〉について」『人文研究』第28号第4分冊 大阪私立大學
文學部
- 平井勝利共著 1995 「“開始”と“起來”の使い分け」『ことばの科學』名古屋大
學言語文化部
- 朱繼征 2004 「中國語の起動相について——“開始～”と“～起來”の文法的使い
分けと意味的分析を中心に」『中國語學』日本中國語學會
- 郭銳 「中國語動詞のプロセス構造」原文《中國語文》1993年第6期 吳志剛訳
- 陳平 「現代中國語における時間體系の3元構造」原文《中國語文》1988年第6期
山田忠司/伊藤さとみ/于康訳

〈例文出典〉

- 孟琮等 1999 《動詞用法辭典》商務印書館

特殊例から考えるアスペクトを表す“起来”

刘月华 1998 《趋向补语通释》北京语言文化大学

『中日対訳語料庫』 2002、2003 第一版 北京日本学研究中心

中国語ヤフーから無作為的に抽出したサンプル

(ちょう ちくすい・お茶の水女子大学大学院博士後期課程)